

余部鉄橋利活用基本計画の概要

1. 計画条件の整理(計画策定の背景と経緯)

昭和61年の列車転落事故以降、風速規制が強化され、山陰本線の定時性が低下。定時性と安全性の確保のため、新橋梁への架替工事が進められているが、現余部鉄橋が観光資源・近代土木遺産として高い評価を踏まえ、現鉄橋保存の声が多く寄せられていた。

そこで、余部鉄橋利活用検討会が設置され、19年3月には「余部鉄橋の保存と再出発に向けた提言」が取りまとめられた。

兵庫県では、提言の実現に向けて、施設整備等の基本計画を策定した。

2. 基本理念

「鉄橋からはじまる多彩な交流と余部の元気あふれる地域づくりに向けて」

- ・風景のイメージーションと地域づくりの核
- ・多彩な交流活動と地域づくりへの視座～新たな風景「空の駅」の創出～

3. 整備方針と整備内容

1) 整備方針

新たな施設整備は必要最小限とし、余部地域のそのままの姿と人々のふれ合いを通じて、余部鉄橋の物語を継承し地域の活性化をめざす。

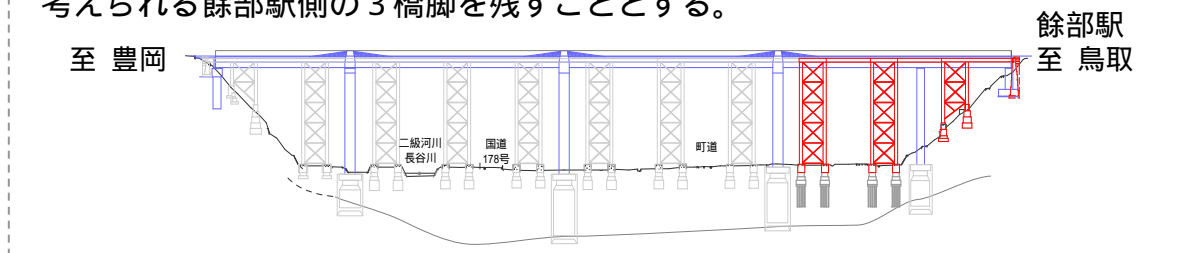
2) 整備内容

余部鉄橋の継承

鉄橋の一部(3橋脚3スパン)を現地で保存し「空の駅(展望施設)」として活用するとともに、歴史と教訓を伝える鉄橋記念施設を整備し余部鉄橋の継承を行う。

余部鉄橋の残し方

鉄橋からの落下物を最大限配慮し、地域住民の生活への影響が最も少ないと考えられる余部駅側の3橋脚を残すこととする。



余部地域の活性化

余部地域にある豊富な地域資源との連携を図るとともに、地域振興施設(道の駅)の整備を行い、余部地域の活性化を図る。

人や情報の交流拠点

地域情報・道路情報発信施設(道の駅)及び休憩施設の整備を行い、交流拠点の整備を行う。

4. 各施設の機能

利活用の3本柱を実現する機能を担うと共に、その機能を地域住民を中心としながら、多様な主体が継続的に支えるしくみとする。

5. 計画区域のゾーニング

地域資源の特性に応じた5つのゾーンを設定

- 鉄橋記念コアゾーン
- 自由広場ゾーン
- 鉄橋展望ゾーン
- 水辺ゾーン
- 散策ゾーン

鉄橋記念コアゾーン

・記念エリアの中核機能を担う場
(地域の玄関口・総合案内所を形成)

余部鉄橋記念施設

余部鉄橋の歩みと在りし日の姿を伝える
建設から現在までの歴史の伝承
模型で余部鉄橋の雄姿を再現



道の駅

交流の促進と地域の活性化
特産物の提供、地域の活性化
休憩の場の提供、道路・観光案内

観音像

痛ましい事故の教訓を語り継ぐ
事故の写真パネルを展示



水辺ゾーン

・安らぎを与える水辺を感じられる場

水辺公園

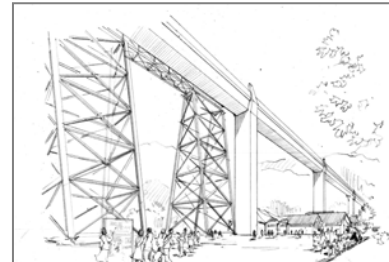
自然豊かな川の水辺を見て楽しむ
近寄りたくなる水辺を形成

ポケットパーク

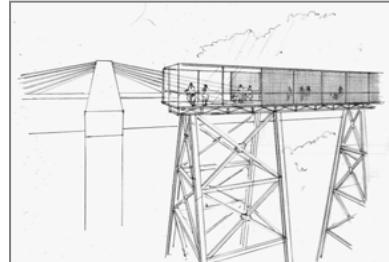
余部鉄橋の在りし日の姿を回想
在りし日の余部鉄橋と重ね合わせるため
のクリアボードを設置
鉄橋の雄姿を感じる場とする



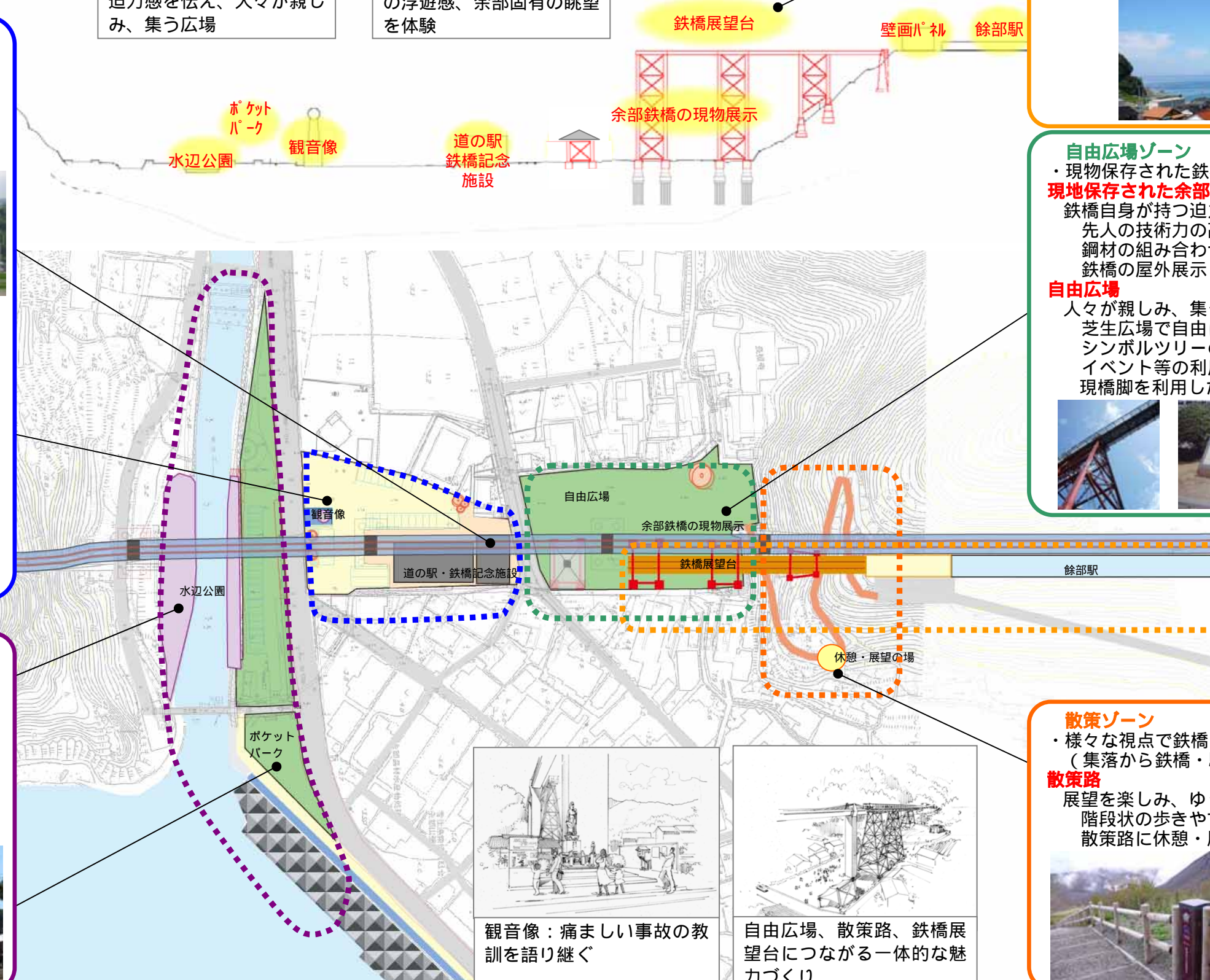
イメージ図



自由広場：鉄橋自身が持つ
迫力感を伝え、人々が親し
み、集う広場



鉄橋展望台「空の駅」：41m
の浮遊感、余部固有の眺望
を体験



鉄橋展望ゾーン

・余部の風景を感じる場
(新たな視点場からの代表景を創造)

鉄橋展望台「空の駅」

余部駅とつながる鉄橋を活用した「空の駅」
空の駅として展望の場を整備
高さ41mの浮遊感体験
余部固有の眺望を体験
(山陰海岸の自然美、夕日、漁り火等)



自由広場ゾーン

・現物保存された鉄橋に親しむ交流の場

現地保存された余部鉄橋

鉄橋自身が持つ迫力感を伝える
先人の技術力の高さ・スケール感を体感
鋼材の組み合わせによる構造美を感じる
鉄橋の屋外展示とし、説明サインを設置

自由広場

人々が親しみ、集う広場
芝生広場で自由に遊べる場の提供
シンボルツリーの桜
イベント等の利用が可能な
現橋脚を利用した東屋の設置



散策ゾーン

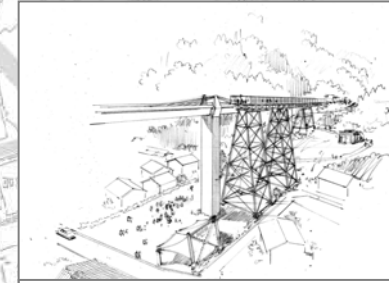
・様々な視点で鉄橋を楽しむ場
(集落から鉄橋・駅へのアプローチを形成)

散策路

展望を楽しみ、ゆったりと歩く
階段状の歩きやすい「自然の道」
散策路に休憩・展望の場を整備



観音像：痛ましい事故の教訓を語り継ぐ



自由広場、散策路、鉄橋展望台につながる一体的な魅力づくり

6. 鉄橋記念コアゾーンの主な施設(鉄橋記念施設・道の駅)

1) 鉄橋記念施設・道の駅の構成

鉄橋記念施設：鉄橋の記録保存、総合案内、地域情報の収集・発信 等

道の駅(道路管理施設)：休憩の場、交通情報サービス

道の駅(地域振興施設)：農水産物の直売、食の提供等



道の駅・鉄橋記念施設の整備イメージ



道の駅・鉄橋記念施設の施設計画図

2) 鉄橋記念施設の概要

整備の基本的な考え方

- ・「現地保存された鉄橋」を中心に構成。
- ・オリエンテーション機能を重視したコンパクトな施設。

展示テーマと展示物

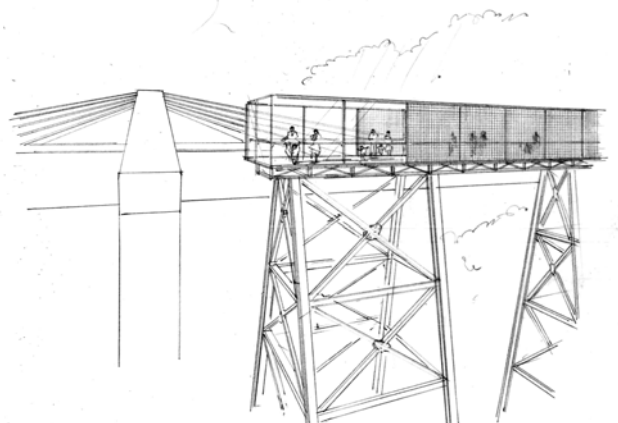
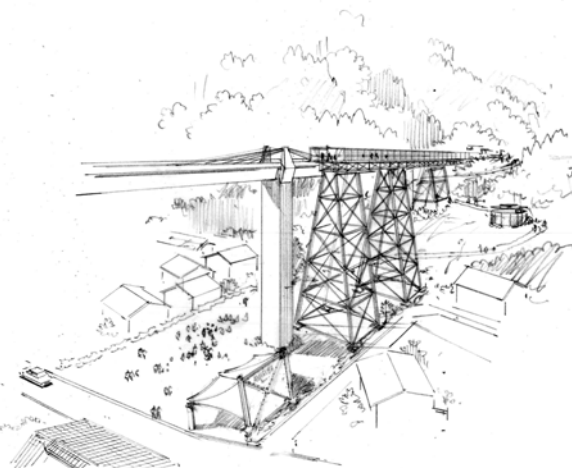
- ・鉄橋の「姿」～在りし日の姿～：余部鉄橋の模型(S=1/45)等
- ・鉄橋の「技術」～先人たちの技術力～：撤去部材、設計図、技術者の記録 等
- ・鉄橋の「歩み」～痛ましい事故の教訓～：橋守や列車転落事故の記録 等
- ・余部地域の「暮らし」～地域との関わり～：開通式や余部駅建設の写真 等
- ・鉄橋の「将来」～近代土木遺産に関する議論の活性化～：現地保存の経緯 等



展示イメージ

7. 鉄橋展望ゾーンの主な施設(鉄橋展望台「空の駅」)

現地保存の鉄橋は、展望施設として活用し、鉄橋のスケール感と雄大な風景を体験する場とする。



鉄橋展望台「空の駅」の施設整備イメージ